

ジャンクションやインターチェンジ付近では、
移転の影響が生じます。

凡	例
	開削ボックス区間
	開削ボックス区間 (埋め戻し部)
	シールドトンネル区間

世田谷通り

世田谷通りインターチェンジがない場合



世田谷通りインターチェンジがある場合



開削ボックス区間の建物数



国道20号

国道20号インターチェンジがない場合



国道20号インターチェンジがある場合



ジャンクション構造を一体的に活用した場合(関越方向のみ)



開削ボックス区間の建物数



東八道路

東八道路インターチェンジがない場合



東八道路インターチェンジがある場合



ジャンクション構造を一体的に活用した場合(東名方向のみ)



開削ボックス区間の建物数



高架構造の場合 (現都市計画)

約3000棟 移転

ジャンクションのみ

最大約1000棟移転

ジャンクション
+
5箇所のインターチェンジ

最大約2000棟移転

ジャンクション
+
ジャンクション一体型インターチェンジ

最大約1200棟移転

青梅街道

青梅街道インターチェンジがない場合



青梅街道インターチェンジがある場合



開削ボックス区間の建物数



目白通り

目白通りインターチェンジがない場合



目白通りインターチェンジがある場合



開削ボックス区間の建物数



注)・建物数は、現在の都市計画のアクセス位置・方向と同じ等と想定した地下構造の場合の建物数を都市計画図を用いて数えたものです。
・地上部街路による影響は含まれておりません。